

令和7年度

---

---

# 運営に関する計画

---

---

最終評価



大阪市立鶴見小学校

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- ・ほとんどの児童がいじめはいけないこととわかっているが、絶対にいけないことであることと理解していく必要がある。
- ・コロナ禍をきっかけに、不登校児童数が少しずつ増えてきている。不登校児童に対する対策を組織的に進めていく必要がある。
- ・基本的な知識・技能は身につけているが、主体的・対話的な学習をさらに進め、発展的な学習を実践していく必要がある。
- ・学習が「わかる」児童の割合は全国平均を上回っている。個に応じた学習を進め、学習が「楽しい」と答える児童の割合を全国平均以上にしていく必要がある。
- ・コロナ禍をきっかけに、C-NETとの関りが減少している。かかわりを増やし外国語に対する親しみが増すようにしていく必要がある。
- ・全国調査の体力合計点では、大阪市の平均を上回っているが、全国平均には届いていない。日常的な運動を体力の向上につなげていく必要がある。
- ・児童は端末を自分で扱うことができている。学習に有効的に活用していく方法を考えていく必要がある。
- ・教職員に時間のゆとりがない。教材研究や自己研鑽に向かえる時間を確保していく必要がある。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を81%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・令和7年度の本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を99%以上にする。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を71%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を73%以上にする。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の51%以上にする。
- ・令和7年度に第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を79%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を74%以上にする。

**【安全・安心な教育の推進】**

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を82%以上にする。(80.9%)
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(2.04%)
- ・本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を98%以上にする。(97.6%)

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ・小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。  
(6年度 4年-0.06 5年+0.02)
- ・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。(72.0%)
- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。(69.2%)

**【学びを支える教育環境の充実】**

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(5.6%)
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。(89.2%)
- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。(75.4%)

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### **【最重要目標1】安全・安心な教育の推進**

「心の教育」において、大きな成果が見られました。「いじめは絶対にいけない」と回答した児童は **84.8%** に達し、目標の 82% を上回りました。この規範意識の醸成が、不登校児童の在籍比率改善 (1.79%) にもつながったと分析しています。一方で、スマホの適切な利用に関する理解度は **95.5%** に留まりました。SNS を介したトラブル防止は依然として重要な課題であり、次年度も情報モラル教育の徹底と家庭への啓発を継続してまいります。

#### **【最重要目標2】未来を切り拓く学力・体力の向上**

子どもたちの「学び」と「運動」に対する意欲が大幅に向上しました。外国語（英語）への肯定感は **78.3%**、運動への肯定感は **74.9%** と、いずれも目標を達成しました。学習面では、国語の経年調査において4年・5年で対全国比が向上しましたが、6年生に課題が見られました。次年度は、向上した学習意欲を、高学年における確かな読解力・思考力へと結びつける指導の工夫を進めてまいります。

#### **【最重要目標3】学びを支える教育環境の充実**

教職員の年休取得率は **96.4%** と高く、指導体制の維持に努めました。一方、ICT活用と読書習慣については目標に届かず、明確な要因分析を行いました。

ICT活用 (**20.0%**) については、端末の老朽化によるフリーズ頻発や、システム上の集計（正規の起動手順以外はカウントされない等）が壁となりました。しかし、今年2月に全ての端末が最新の Chromebook（クロムブック）へと更新されたことで、動作環境は劇的に改善しています。次年度は新端末をフル活用し、活用頻度を飛躍的に高めてまいります。

読書肯定感 (**68.2%**) の低下は、図書室の改装工事により貸出や読書スペースが長期間制限されたことが主因です。リニューアルした図書室を活用し、再び本に親しめる環境づくりを急ぎます。

(様式2)

大阪市立鶴見小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を82%以上にする。(80.9%) 84.8% ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(2.04%) 1.79% ・ 本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を98%以上にする。(97.6%) <b>95.5% 2月児童アンケート</b>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】 学校全体でいじめについて考え、「いじめ防止」の意識を高める。 指標 学期に1回、「いじめ(いのち)について考える日」を設ける。	B
取組内容②【1、安全・安心な教育環境の実現】 新たに不登校児童を増やさないような取組を推進する。 指標 学期に1回校内研修会を実施し、それをもとに子どもの実態をとらえ、適切な支援を行っていく。	B
取組内容③【1、安全・安心な教育環境の実現】 情報を取り扱うための判断力や心構えを身につけるようにする。 指標 年1回以上、各学年で情報モラル教育を実施する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 学期に1回「いじめ(いのち)について考える日」を設け、全校朝会での学校長の講話、学級指導、道徳など学校全体で、いじめについて考える機会をもち、意識を高めることができた。 ② 研修会や部会などでの共通理解や、カウンセラー、サポーターなどとの連携を通して、子どもの実態をとらえ、個々の適切な支援につなげることができた。 ③ 出前授業などを実施し、学年に応じた情報モラル教育を実施することができた。	
次年度への改善点	
① 継続指導していくことで、いじめ防止の意識の向上につなげていく。 ② 不登校の要因は多岐にわたり、なかなか有効な手立てがみつからない。今後も学校内だけでなく、学校外とも連携していく必要がある。また、登校したときの居場所づくり、体制づくりをしていく。 ③ 引き続き各学年に応じた系統立てた計画づくりが必要。また、学校だけでなく、家庭との連携が必要で、保護者に対しての呼びかけが必要ではないか。	

(様式2)

大阪市立鶴見小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 (6年度 4年-0.06 5年+0.02 ) <b>7年度 4年+0.07 5年+0.12 6年-0.12</b></li><li>・ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を73%以上にする。(72.0%) <b>78.3%</b></li><li>・ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。(69.2%) <b>74.9%</b></li></ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】 国語に親しみを持ち、読み取る力を育てる。	B
指標 週に1回、読書タイムを行う。	
取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】 外国語に親しむ機会を増やす。	B
指標 短時間英語学習で月に1回以上、図書教材やCD・DVD教材を活用する。	
取組内容③【5、健やかな体の育成】 運動やスポーツを楽しみ、積極的に取り組むようにする。	A
指標 年に3回以上、運動の楽しさに関する啓発を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 読書タイムや隙間時間を使って実施することができた。その結果、読書活動が定着し、本に親しむ児童が増えてきている。また、教科書に関連した本を教室に置くなど、環境づくりに努めた。</p> <p>② 短時間英語を実施することができており、英語に親しむ機会が増えている。また、掲示板で英語の日付を知ることができ、掃除の時間に英語の歌をきくことで短時間英語以外でも触れる機会があった。しかし、教材の活用ができていないクラスもある。</p> <p>③ 年に4回(スポーツフェスティバル2回、ぴよんぴよんタイム、かけあしタイム)を実施することができた。取り組みの成果により、最も肯定的な「好き」と回答する児童が増えた。</p>	
次年度への改善点	
① 継続して取り組むために、学級文庫を充実させ、読みたい本が身近にある環境を整えていく必要がある。読書時間は確保できているが、書く力や発表する力に繋げていくた	

めの指導が必要である。

- ② 短時間英語の指導案に沿った教材を回覧できるようにする必要がある。実施状況を把握できるようにしたほうがよいのではないか。給食時間の放送で教科書や短時間英語で出てくるような曲を流すとより触れる機会が増えるのではないか。

朝学習の時間に取り組むものが決まっています（読書・短時間英語）クラスの実態に合わせた取り組みができないので、学校全体で何か取り組むことを決めて行うことが必要ではないか。

- ③ 継続して取り組む。また、出前授業等で専門家に指導していただく機会を増やしたり、体育倉庫の運動用具の一部を休み時間にも使用できる期間を設けたりするなどして、運動やスポーツを楽しめるようにする。

## 大阪市立鶴見小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(5.6%) <b>20.0% (1月末まで分)</b></li> <li>年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。(89.2%) <b>96.4%</b></li> <li>小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。(75.4%) <b>68.2%</b></li> </ul>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>「心の天気」を毎日入力することを手始めに、1人1台学習者用端末の活用を進め、情報活用能力や自己表現力の素地を養う。</p> <p>指標 1人1台学習者用端末を毎日利用する。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容②【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>充実した教育活動に向け、教職員が休養や自己研鑽できる時間を確保していく。</p> <p>指標 課業日の放課後に会議等を行わない日を年間96日以上設定する。<b>98日</b></p>	<b>B</b>
<p>取組内容③【8、生涯学習の支援】</p> <p>児童の知的好奇心に働きかけ、楽しみながら読書をする機会を増やしていく。</p> <p>指標 学期に1回以上、読書を推進する取組を行う。</p>	<b>B</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 心の天気をはじめ、学習の色々な場面で学習者用端末を活用しているが、年度目標には届いていない。スクールライフノートにショートカットキーからはいつていることやつけ忘れが原因と考えられる。</p> <p>学習者用端末を使用できている学年が多いが、授業内での使用率は学年によって異なっており、研修等で使い方を共有していく必要がある。</p> <p>② 週1回ある「ゆとりの日」には、放課後の時間が確保でき、早く退勤することができている。会議の縮減や、早く退勤しようとする意識の高まりにより、早く退勤する教職員が少しずつ増えてきているが、通常ではまだまだ難しい。</p> <p>③ 図書館工事があり、読書の機会がへった。読書を推進する活動は、図書委員の活動や司書さんのはたらきかけ、お話し会などで実施できていて、本に親しむ児童が増えている。</p>	
次年度への改善点	

- ① 心の天気をつけ忘れを防ぐため、スクールライフノートを活用し、連絡帳を配信し、心の天気を毎日入力する習慣を定着させる。  
授業内での効果的な端末活用について校内研修を実施する。
- ② 早く退勤することは増えたが、反面持ちかえりの仕事が増えている。業務の精選、会議の効率化やスクールサポートスタッフとの連携等、さらに業務内容の見直しを進め、余裕をもって働けるような環境づくりに努める。
- ③ 読書の機会が増えるような取り組みをしたが、目標値に到達できていなかった。次年度にむけて、新たな取り組みとして、新聞回覧、図書コーナー作り、ご家庭への働きかけを考えている。他にも、縦割り活動で読み聞かせ、学級文庫の充実といった案も検討していく。